

防災 水害に備える



水害は身近な災害です

わが国は、人が住むのに適した土地の面積が狭く、水害のリスクが高い地域も居住地となっています。東京など大都市の多くは沿岸部の低い土地にあり、いつ水害が起こってもおかしくはありません。



水害の種類

河川の洪水

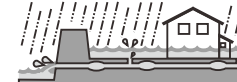
(外水氾濫)

河川の水量が普段より増え、あふれて広がる。

浸水・住宅が水に浸かる
冠水・田畑や道路などが水に浸かる

内水氾濫

降水量が下水道の排水能力を超え、河川に放流できず浸水する。



土砂災害

・土石流
・がけ崩れ (急傾斜地の崩壊)
・地すべり

高潮

海面水位が上昇する。低地に浸水被害が急速に広がる。

水害をもたらす気象条件の発生は近年、増加傾向にあります

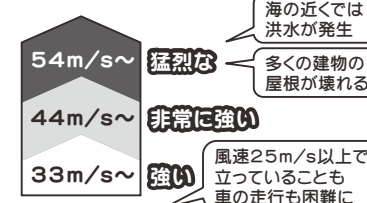
大型台風

台風の程度は大きさで表す (雨の強さは判断できない)

大きさ



強さ



大雨 (雨量は目安です)

集中豪雨

狭い範囲に激しい雨が数時間降り続く
数時間に100mm~数100mm

局地的大雨 (ゲリラ豪雨)

狭い範囲に激しい雨が突発的に降る
数十分間に数10mm~

局地的大雨を降らせる積乱雲は10分程度で急速に発達するため予測しにくい

局所的で急に降るため、二次災害を想定しにくい

例えば 上流域で大雨が降った後、離れた下流域で水量が急激に増えて氾濫し、市街地に被害が発生することも

宣言

明るい笑顔

すぐ返事

伝える元気

かちどき薬品
げんき君 ホームページ
健康に関する情報がいっぱい
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ



事前の備え

水害ハザードマップを確認

自治体の水害ハザードマップには、最大規模の降雨で浸水が想定される地域(洪水浸水想定区域)と危険度、避難場所などの情報が地図上に記されています。

自分が住んでいる地域には水害のリスクがどの程度あるのか、避難場所はどこにあるかを確認しておきましょう。

確認すること

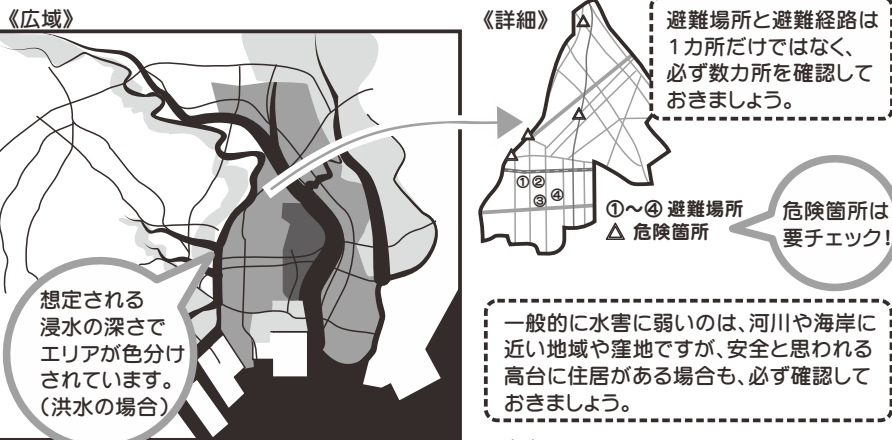
- 水害リスクの高い地域
- 避難場所
- 避難経路

必要な対策

居宅の水害リスクが高い…土のうを備蓄する
 避難場所…家族全員が知っておく
 避難経路…実際に歩いてみて安全確認をする

あらかじめ得た知識が、いざという時の判断・行動の基準になります。

ハザードマップの例



○洪水 ○内水氾濫 ○土砂災害
 それぞれの情報が記されています。

参考
 国土交通省ハザードマップポータルサイト
<http://disaportal.gsi.go.jp/>

事前の備え

持ち出し品をまとめておく

いざ避難、という時が来ても慌てることなく速やかに行動できるように、前もって非常持ち出し袋を準備しておきましょう。

前もって準備

直前に追加

<p>懐中電灯 予備電池 ホイッスル 携帯ラジオ 万能ナイフ 筆記用具</p>	<p>非常食 長期保存食 (そのまま 食べられる食品)</p> <p>飲料水 ミネラル ウォーター</p>	<p>防水 リュックに</p>	<p>携帯電話 充電器</p> <p>貴重品 免許証・保険証 現金(小銭も) 鍵・通帳など</p>
<p>衣類 靴下 下着 上着 ストール スリッパ</p>	<p>衛生用品 救急セット ティッシュ 除菌グッズ マスク 歯ブラシ 非常用トイレ</p> <p>薬 タオル</p>		<p>個々に必要なもの 眼鏡・補聴器・杖 紙おむつ・おしりふき ミルク・母子手帳 お薬手帳・生薬用品など</p>

+雨天時の避難にはレインコートも +黒のゴミ袋…多用途に使えます

安否確認の方法を決めておく

家族や大切な人と別行動で避難しなければならない場合もあります。連絡の方法を決めておく+色々な通信手段を知っておくと安心です。

【電話】

- 171**
NTT災害用伝言ダイヤル
固定電話・携帯電話・公衆電話から利用可能です。
- 災害用伝言板**
携帯電話の伝言板
通信会社により使い方が異なります。
- 親戚や知人に伝える**
連絡先 電話番号

【インターネット通信】

- Twitter**
Facebook
LINE など
広く情報交換に使えるSNS
Twitter「#減災レポート」他
- 災害時の無料Wi-Fi**
ファイゼロ ジャパン
0000 JAPAN
被災地域では認証手続なしでインターネットに接続できます。
(個人情報の入力には注意が必要です。)

【その他】

- 伝言を手書きする**
アクセスが集中したり被災して電話もインターネットも使えない場合に備え、筆記用具を準備しておきましょう。
- 水に強い油性ペンで

水害の恐れがある時

気象情報や河川情報に注意

水害の危機は目前に迫るまで危険度を実感しにくいことがあります。避難の遅れを防ぐには、正しい情報をリアルタイムで得ることが重要です。

テレビ・ラジオ・防災アプリ・インターネットで調べたり、自治体の防災メールに登録して情報を受信するなど、その地域の現在の状況がわかる情報を入手しましょう。



気象警報・注意報

気象庁 気象警報・注意報
<https://www.jma.go.jp/jp/warn/>

川の防災情報

国土交通省 川の防災情報
<http://www.river.go.jp/portal/#80>

減災のポイント

洪水警報と大雨警報の混同に注意

洪水警報は…河川の洪水・氾濫による災害の警報
大雨警報は…内水氾濫による浸水や土砂災害の警報

時間差洪水に注意！

大雨警報が解除されても、上流の大雨の影響により洪水警報が続くことがあります。また、警報が解除された後に水位が上昇して氾濫が起こった例もあるため、雨がやんでも油断しないことが大切です。

過去の経験だけで判断しない

過去の経験からわかることもありますが、今までに経験したことのない重大な災害が発生する可能性もあります。

予測しにくい
天気の急変…



局地的大雨の予兆現象 (ゲリラ豪雨)

- 黒い雲が近付いて、周りが急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見える。
- 冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や雹が降り出す。

水害の恐れがある時

被害を最小限にする対策を

家屋や家財の被害軽減のための対策は、時間に余裕があるうちに、できる範囲で行いましょう。

■洪水の侵入を防ぐ 玄関の外に土のうで壁を作る



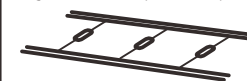
ブルーシートの上に土のうを積んで入口をふさぐ



ブルーシートの上に板を立てて置き土のうの重しで止水板にする

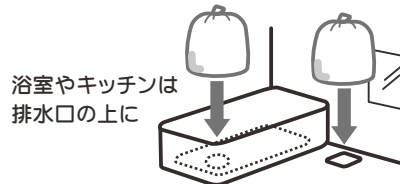
■側溝の詰まりを取り除く

できれば普段から側溝を掃除して水はけをよくしておく



■下水管からの逆流を防ぐ 排水口を土のうでふさぐ

排水が追い付かなくなり、下水が逆流することがあります。



浴室やキッチン排水口の上に



トイレは便器の中に

土のう

土が入っている袋で、ホームセンターなどで購入が可能です。水を入れると固まって簡単に土のうが作れる「土を使わない土のう」もあります。

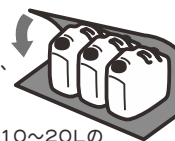
土のうが無い時の代用品

ゴミ袋を二重にして水を半分入れる。口を縛り、段ボール箱に入れて並べる。



40L程度のゴミ袋×2枚重ね

ポリタンクに水を入れて並べ、ブルーシートを巻いて包む。



10~20Lのポリタンク

土を入れたプランターでも

減災のポイント

地下や低い場所に居続けない

浸水しやすく、水圧でドアが開かなくなることもあります。寝室もなるべく上の階に。

用事は明るいうちに済ませる

停電の可能性があります。夜間は懐中電灯を手元に用意しておきましょう。


逃げ遅れないために

避難情報をこまめにチェック

気象条件によって刻一刻と状況が変わることがあります。
最新の情報を確実に得られるよう、常に複数の手段で確認し、
早めの避難準備と行動を心掛けましょう。

・緊急速報メール ・防災行政無線 ・テレビ ・ラジオ ・各種防災アプリなど

警戒レベルによる行動のめやす

警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル5
早期注意情報	大雨注意報 洪水注意報	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 避難勧告 避難指示	氾濫発生情報 大雨特別警報 〔災害が発生〕
気象情報を確認する	避難所と避難経路を確認する	避難準備 ★障害者 ★高齢者 ★乳幼児 避難開始	 全員避難 避難所または 屋内の最も 安全な場所へ	命を守る 行動
非常持出品を点検する				

レベル1～2は気象庁より発表、レベル3～5は各市区町村より発令されます。

現在地の状況により、避難の方法やタイミングは異なります。

減災のポイント

夕方までに避難する

夜に台風が接近したり大雨の予報がある時は注意が必要です

暗くなってから大雨の中を避難するのは危険です。暗いため視界が悪く、大雨で音が聞こえにくいので危険に気付くのが遅れ、避難中に被災することも。もし、夜になって避難を検討するなら、安全性を考えてから判断してください。

川や用水路の様子を見に行かない

大雨の時は川や用水路の近くに行くのは大変危険です。雨が降り続いて不安になり、実際に川や用水路まで見に行くと被災するケースが多発しています。公開中のライブカメラやリアルタイムの水位観測情報から状況を把握し、現地に向かうのはやめましょう。

避難する時

「まだ大丈夫」と思わない

水害の危険が迫っている時は判断に時間をかけず、すぐに行動に移す必要があります。避難指示を待つことなく、状況を見て自主的に避難を。避難する際は、命を守るために気を付けたいことがあります。



避難する場所は「避難所」だけではありません。災害を避けて安全な場所へ身を移すのが避難です。台風なら接近する前に、地域の離れた親類の家に移動するなど、安全に過ごす方法を検討しましょう。



早めに避難を始める

家を出る前には、ガスの元栓を閉めてブレーカーを落とし、戸締りを確認しましょう。

暗くなる前に避難先へ

冠水している道は極力通らない 車での避難は危険

冠水した道を車で走ると、ドアが開きにくくなったり故障することがあります。水位が上昇して車ごと流される恐れもあります。

危険な場所には近寄らない

！河川
！用水路



！アンダーパス



！切れた電線
！マンホールの蓋



！崖



冠水の中を歩く場合は

靴は
スニーカーで



×長靴 ×素足

水中の障害物
に注意！

杖や長い棒で足元を確認しながら慎重に



水深が浅くても
流れが速い場合は危険！

歩ける深さの目安は膝下まで

↑ 成人男性70cm
↓ 女性50cm程度

浸水が始まっていたら垂直避難！



すでに浸水が始まり、建物の外への避難が危険な時は、屋外へ出ないでできるだけ高い所に上りましょう。



避難中に道路の冠水が始まった時は、遠くの避難所に向かわず、少しでも高い所を目指しましょう。